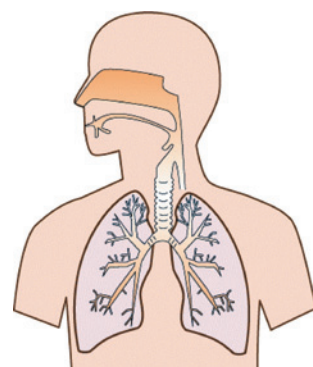


呼吸器外科

胸腔鏡下手術について

胸腔鏡下手術とは、胸に小さな切開をおいて行う手術方法です。胸腔鏡といわれる細長いカメラを小さな切開創から胸腔内へ挿入して、胸腔内をモニターに写し出します。小さな切開創を追加して、胸腔鏡手術用の道具を胸腔内へ挿入し、モニター視しながら手術を行います。

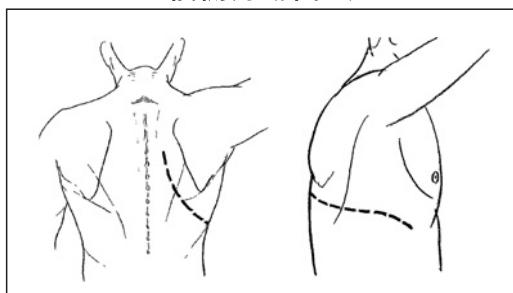
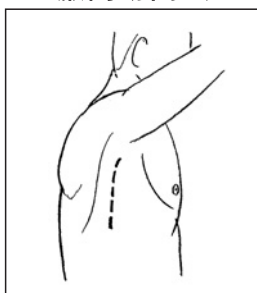
従来の開胸手術と比較した場合、胸腔鏡下手術の利点は、傷が小さく、術後の痛みも少なく、早期に退院が可能であることです。欠点としては、適応となる病気が限られていること、緊急時の処置に時間を要すること、などがあります。



©メディカルイラスト図鑑

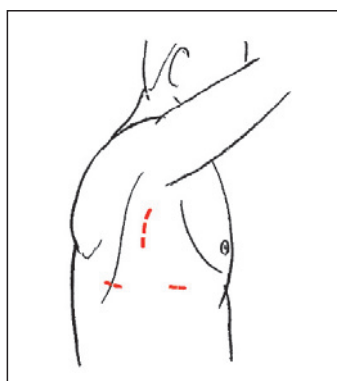
従来の開胸手術の皮膚切開

後側方切開法

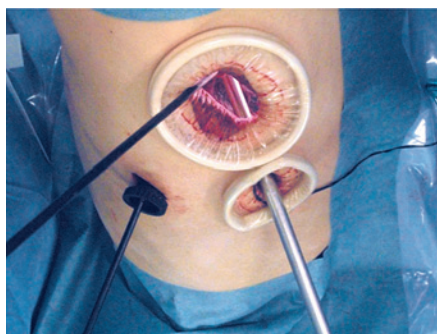
えきか
腋窩切開法胸腔鏡下手術の
対象となりうる病気

- ①自然気胸
- ②肺 癌
- ③胸部の腫瘍性疾患
(縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、神経原性腫瘍、など)
- ④感染性疾患(膿胸など)

胸腔鏡下手術の皮膚切開



手術写真例



実際に選択すべき術式に関しては、病名・病変の部位や大きさ・年齢・基礎疾患・体格、などによって判断しております。

術後の疼痛や早期離床の点から考えますと、なるべく胸腔鏡下に手術をやり終えたいと考えておりますが、第一に優先すべきことは手術の安全性および治療の根治性であります。手術中の状況によっては胸腔鏡下手術から開胸手術へ変更することもあります。

手術を受けるときは、術前説明の際に、担当主治医より詳しい説明をお聞きください。

(呼吸器外科 副部長 持永 浩史)